

ゆりかご 園だより

2020・5・1

I期(4・5月)のねらい
新しい先生・ともだちと仲よくなる

みかん組、行き、子どもたちがおやつを食べている様子を覗いた時のことです。音屋には3つのテーブルがあり、それぞれ3歳、4歳、5歳の子が混ざって食べていました。

そのうちの一つのテーブルに座っていた5歳児のRちゃんが、私に「Tってすごいんだよ」と教えてくれました。「ハズーどんなところがすごいのか?」と聞くと、「あのね、前はおばあちゃんがお迎えに来てもすぐ帰らなかつたんだけど、今はすぐ帰るんだよ」とのことです。

Tくんは3歳児です。異年齢クラスのメンバーを編成し直したばかりだったので、RちゃんがTくんのことをよく見ていたことに驚きました。「まだ帰りたいくない」と、お迎えに来たおばあちゃんをてこずらせることが多かったようですが、「もう帰るよ」と促され、すんなり帰ったことを言評価してくれたのでしょう。Rちゃんのことばを耳にしたTくんは、「ちゃんと帰らない時もあるけどね」と嬉しそうに照れながら言っていました。

誰でも「すごいんだよ」と認められ、ほめられるとうれしいものです。Tくんのうれしそうな表情を見ているこちらもうれしくなりました。そして、Rちゃんの「クラスの仲間のすごいところ」は続きました。

「お母さんにやさしいところ」「赤ちゃんを守ってあげるところ」「友だちと楽しくあそぶところ」「背中をピンと伸ばして座るところ」…。Rちゃんのそれぞれに対する言評価は違っていて「なるほど、ほんとにそうだなあ」とうなずけることばかりでした。

大人は子どもに対し、「もっとこうなしてほしいな」と、つい要求や原価が前面に出てしまいがちですが、仲間のありのままの姿の中から「すごいなあ」と良いところを見つけられるRちゃんを「すごいなあ」と思うし、大切なことを教えてもらった気がしました。

新年度が始まり1ヶ月が経ちます。泣き声の多かった新入園児たちもずい分慣れ、笑顔が多くなってきました。新入園児も在園児も、大人も子どももみなそれぞれに「すごいところ」があります。その「すごいところ」をたくさんみつける一年にしたいなあと思います。

